



荏原工業洗浄株式会社 雇用事例紹介



当社は、電力会社の持つ火力発電所や原子力発電所などの施設を中心に、「洗浄」「除染」などのメンテナンス業務を行っている企業です。

長年、日本のエネルギーインフラを陰で支え社会に貢献してまいりましたが、現在は、福島第一原子力発電所において、廃炉のために当社がもつ技術力を結集

し、世界初にして最大の除染装置を作り上げ、復興のために協力しております。

他の分野においても、何か社会貢献ができないか考えていたおり、社内の組織変更に伴い、総務人事部の業務負担が増したため、新たに人材を募集することになりました。そこで、障害者雇用を検討し始めました。しかし、今まで障害のあ

る方を採用した経験がなく、どうやって進めたら良いか、全く分からない状態でした。半ばあきらめかけた時、偶然にも川崎市のホームページで『企業応援センターかわさき』(以後、“応援センター”と称する)の存在を知り、ダメもとで直接訪問をしたのが2019年8月のことでした。

相談後の対応について

突然の応援センターへの訪問にも関わらず、当社の課題に真摯に向き合ってくれ、訪問後間もなく『雇用迄の実施計画案』を作成いただきました。50項目に及ぶ課題に対して、それを受け取った時の正直な気持ちとしては「こんなにもやることあるのか?」「できるだろうか?」との不安がありました。その後も応援センターの支援員に実際に

社内の様子を見学いただいたり、“障害者を受け入れている他企業担当者からの声が直接聞ける講演会”や、“受け入れ企業としての心構えを身に着けるための研修会”等の様々な学びの機会を提供いただきました。そして徐々に「採用」に向かっての準備を進めて行くことができました。途中で不安になったり、諦めかけた時もありましたが、そ

のたびに「今はこの段階まで進んでいます」「一緒に頑張らしましょう」との励ましの言葉をいただくなど、親身になって私たちと一緒に取り組んでいただいたおかげで、ひとつ、またひとつと項目をクリアしていき、気が付いた時には全項目を達成することができていました。結果、2020年4月1日付で採用までたどり着くことができました。



出前講座の様子

新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が出されたため、4月の入社早々、テレワークによる在宅勤務の指示となり、不自由な状況だったと思います。緊急事態宣言が解除となり、出勤勤務となったから、その変化が原因か疲労勤務の診断書が出たため、本人の体調回復を最優先に考えた対応を取りました。そのような状況でも、応援センターとは常に情報共有をしながら、アドバイスを受け

入社後のフォローについて

ることができました。おかげさまで、現在は体調も回復したようで、週四日の勤務ができる状況になりました。9月に『トライアル雇用期間』の満了を迎え、会社・本人双方の強い希望で『雇用延長』の手続きを行いました。今後も、安定した就労環境づくりに留意するとともに、引き続き応援センターからの支援をお願いしたいと思います。

まずは自分たちが学ぶべきこと

障害のある方を会社に受け入れるためには、その責任部門となる私たち総務人事部が、誰よりも障害のある方について理解をしないと進められないことを教わりました。

そこで、まずは障害の種類やそれぞれの特性について学ばなくてはなりません。時間をかけて、応援センターから「どのタイプの方が適しているのか」「迎え入れる側としてどのような準備が必要なのか」説明をしてくれました。

そして少しずつ時間をかけて習得していきました。

また、ハローワークの雇用指導官から障害者雇用助成金制度について説明を受けたり、川崎市内の障害者就労移行支援事業所で、障害者の方の就労に向けた訓練の様子を見学したりと、障害のある方と一緒に就労するイメージを作ることができました。

一歩一歩ではありましたが、『私たち自身の成長』を促してくれました。

実施計画の中には『社員全員の障害者雇用に対する基礎知識の習得』もありました。

本来なら総務人事部の役割ですが、応援センターから、『神奈川県障害者雇用促進センター(神奈川県)の事業』を紹介していただきました。

県の職員の方に社内で全社員を集めた出前講座の講師を務めていただいたおかげで、全社員が障害者雇用制度や障害者特性について習得することができました。

総務人事部から障害者雇用したい旨の話を聞き、『洗浄と除染の技術を活かし、社会に貢献すると同時に』を念頭にすると同時に、『人類が永遠にできる社会環境、地球環境の実現に寄与する事を目的に弛まぬ努力を続ける』との考えから、『社会的責務を果たす企業として是非とも進めるように』との指示を出しました。



代表取締役社長 宮村 圭一様 より